

キ ャ ベ ッ (露地) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に転換する型であるが、結球した段階で収穫となる。窒素の吸収パターンは連続吸収に近い山型を示す。リン酸については、中～高領域に適応性をもつ。また、石灰の吸収量は野菜の中では比較的多い。

初夏産は地力に依存する面があるが、秋冬産は肥料依存度が高い。これは初夏産は降雨量が多く、肥料の溶脱が多いことによるものである。初夏産では、堆肥の多施によって地力を高めること、秋冬産ではやや多めに施用することなどの配慮が必要である。また、浅根性で酸素要求量が大きいため排水には十分配慮する。

〔病害虫・雑草防除〕

土壌病害対策として、低湿地での栽培を避け、抵抗性・耐病性品種の作付けを基本とする。特に夏まき秋冬どりの作型では萎黄病抵抗性品種を利用する。根こぶ病を対象とした土壌施用剤は作条土壌混和を行い、圃場への農薬投下量を削減する。苗床での防除を徹底し、本圃は病害虫を持ち込まないことが大切である。ローテーション散布を行い、薬剤抵抗性害虫の発生を防ぐ。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 1～2t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬 低減技術	B T 剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類など) 育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：コナガ、アブラムシ類など) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：コナガ、ハスモンヨトウなど) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象：コナガ、ハスモンヨトウ) 機械により中耕、除草する。 抵抗性品種を利用する。 (対象：萎黄病) 微生物農薬を利用する。 (対象：軟腐病)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止を目的としたきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。 初期生育を促進することが重要であり、生育初期の養分供給が十分に確保できるような施肥設計をたてる。 初夏産では、梅雨時の溶脱防止に配慮した施肥法をとる。	